

とよかぜ



2013年8月1日 発行



コスモス棟 (青空ランチ)



子どもたちの成長について思う 小児科医 梶原 荘平

私が当センターで勤務するようになって5年がたちます。この5年間センターの子どもたちと接する中で思ったことを振り返って考えてみたいと思います。私自身ここ二十数年間子どもと身体を中心とした診療を続けてきましたが、その中で感じていることは自分の気持ちをうまく表現できない子どもは、こころの中が不安でいっぱいになると、様々な症状を訴えて時につまづくこともあります。大人が思っているほど弱くはなく、柔軟性を持ち合わせていて、しんどいときには適切な支えを周りの大人がしていくと自身自身の力で立ち上がってくるものだと思います。センターに入園あるいは通園している子どもたちも、様々な表情や動作・行動、身体症状などにより周囲の人に自分の気持ちを伝えていくことがあります。そのサインを家族の方がセンターのスタッフが感じ取り、その子自身を支えることにより成長が促されていきます。有意義をほとんど喋れない子どもでも、表情や態度などによってその子のやりたいこと、訴えたいことがおぼろげながらわかることがあります。こころのアンテナの感度をあげて接していきたいと自戒をこめて想っています。

私は連休前にミニトマトと中玉トマトを庭に植え、現在ミニトマトも中玉トマトも徐々に茎も太く葉も大きく成長してきています。地植えをした場合最初に水を与えたら、しばらく根づくまで少し乾燥気味にしておくことが必要で、これにより根は水を求めて根を張りしっかり根づくことができます。またトマトの場合、肥料も実がついてきたら少し与える程度でいいとのこと、素人の考えでは水も肥料もたっぷりやった方が成長して実付きがいいと考えがちですが、やり過ぎは成長を阻害します。これは子どもたちの成長を見守るといふことにも通じます。子どもたちの気持ちを受け止めることは大事なことで、信頼関係を熟成することは重要です。そのうえに立って、過保護・過干渉にならず、してはいけないことに対してはきちんと対応しながら子どもたちの成長を見守っていくことが、子どもたちの成長にとって意味のあることであると考えます。